Engineer プラットフォーム

認証情報漏出後に対象範囲の規則を記述

構成変更によって別会社の資産一覧、ファイアウォール許可、文章が混入したことを受け、リポジトリの対象範囲を定める規則を記述し、隔離した残存物も除外せず秘密情報検査の対象に残した。

9月 2026

別会社の資産が混入した後に定めた対象範囲

状況. 別会社の仕事がリポジトリの構成変更に伴って入り、残っていた。実際の平文認証情報を含む作業ログは、履歴の大半で全検査を通り抜け、古い資産一覧はその会社のホストを名指しし、ファイアウォールのタスクファイルには、16の顧客ネットワークへポートを開ける設定が残っていた。どれも実行されなかった。それこそ、再び読まれず残った理由だった。

課題. 境界を意図でなく検証付きの規則にし、残存物を単に隠さず扱う必要があった。

行動. 指示書冒頭に、1社のインフラだけを管理し、他社のホスト、資産、許可、DNS、認証情報は、無効・コメント・未読ファイルであっても置かないと記した。「関係が終わっても当社が責任を持つか」という実践的な判断基準も添えた。履歴を読めるよう削除せず明確な名の隔離ディレクトリへ移し、構造検査2つだけを対象外とした。混入物を見つけられる秘密情報検査、vault検査、絵文字検査の3つは読み続ける。標準が検知しなかった、コマンドラインフラグに認証情報を渡す漏出形態には、独自の検査パターンを設けた。

結果. 範囲の境界は判断基準付きの規則となり、残存物は埋もれず見え、漏れた具体的な形態はコミットを失敗させるようになった。一般的な教訓も記した。危険な成果物は実行するものより、誰も二度と読まない、実行しないものにある。

この経験をお客様のプロジェクトに

「認証情報漏出後に対象範囲の規則を記述」を、お客様の組織の似た課題を考える出発点にしてください。この実績を支えたサービスを、お客様のプロジェクトにも提供できます。 アカウント、パスワード、権限を整理し、業務に必要なアクセスだけを付与し、退職者の権限は当日に解除します。

サービスを見る お問い合わせ →

結果の背景を確かめる

この事例の状況、判断、結果をご覧ください。どの部分がお客様の制約の下でも生かせるか、どこに別の方法が必要かをご相談いただけます。 認証情報漏出後に対象範囲の規則を記述 — 別会社の資産が混入した後に定めた対象範囲

サービスを見る お問い合わせ →

別プロジェクトへ秘密情報が混入する恐れはありますか？

納品を担当するエンジニアに、プロジェクトについてご相談ください。着手前に、業務範囲、価格の算定方法、引き継ぎ内容を書面で合意します。

担当した役割：セキュリティエンジニア。 関連する分野： データガバナンス, インフラ, 自動化・CI/CD, セキュリティ および 文書作成. こちらのサービスも得意としています データガバナンス・品質管理, セキュリティ・アクセス管理, AIエージェントのセキュリティ および 技術文書の作成.

お問い合わせ サービスを見る

より多くの実績の **一つです** — そのすべてをこのサイトで公開しています。

どの項目も、状況、課題、実施内容、変化という同じ構成で記載しています。

すべての実績を見る

必要な改善を定める

デプロイの流れ、運用上のリスク、緊急対応の担当者をお知らせください。検査、復旧手段、明確な責任の所在を伴う変更の範囲を定められます。

料金を見る お問い合わせ →

別プロジェクトへ秘密情報が混入する恐れはありますか？

「認証情報漏出後に対象範囲の規則を記述」の判断の背景についてお尋ねください。仕事内容を説明し、お客様のプロジェクトを検討できる担当者が対応します。

サービスを見る

welcome@engineer.company +45 50 10 61 84 デンマーク、コペンハーゲン

このページを持ち歩く

連絡先カード

心を込めて丁寧に制作： D.

CVR 45969703 · Tagensvej 105C, 3. th, 2200 København N

著作権 © 2025 – 現在 · Engineer ApS · すべての権利を留保します。

印刷元： https://platform.engineer.company/ja/portfolio/wrote-a-scope-rule-after-a-credential-leak/